

造影剤について

放射線技術科で行う検査には造影剤という薬剤が使用されることがあります。

検査の種類が色々あるように造影剤の種類も様々です。静脈注射をしてそこから注入するものや、経口で摂取していただくものなどがあります。当院で使用している造影剤の種類は以下の通りです。

静脈注射によって 注入する造影剤

- ① **ヨード造影剤**
(CT・尿路・血管撮影)
- ② **ガドリニウム造影剤**
(MRI)

経口摂取による 造影剤

- ① **バリウム製剤 (消化管)**
- ② **発泡剤 (消化管)**
- ③ **マンガン製剤 (MRI)**

1

ヨード造影剤

(CT・尿路・血管撮影用)

CT・尿路・血管撮影用の造影剤には、ヨード造影剤というものを使用します。検査時にこれを注入することによって血管がよく見えるようになり、普通のレントゲンでは写りにくい尿管や膀胱を観察することができます。CT検査時には比較的早く造影剤が体の中に入りますので、体が熱くなることがあります。しかしこれはしっかりと体に入っている証拠で造影CT検査を行う方ほぼ全員なりますので安心してください。造影剤を注入中や検査後に次のようなことがあったら検査担当技師に申し出てください。嘔気や息苦しいなどのアレルギー症状、発疹や発赤・じんましんやそう痒感。これらは、造影剤の副作用の可能性があるので我慢しないですぐにお知らせください。また注入中注射した部位が痛むことがあります血管痛の場合もありますが、血管外に造影剤が漏れている場合も考えられますので、もしこのようなことがあれば言ういただければと思います。このように書くと少し怖い薬のように思えますが、病気の診断には必要なことがありますので医師からの説明をよく聞いていただいて検査を受けるようにしてください。造影CT検査や、尿路造影検査の後は尿によって早く造影剤を排出させるために水分を多く摂取してください。造影剤による副作用には以下のものがあります。重篤な副作用頻度は1万人に1人くらいといわれています。

1. 重篤な副作用

① ショック・アナフィラキシー様症状

呼吸困難、意識消失、咽・喉頭浮腫、顔面浮腫などのアナフィラキシー様症状急激な血圧低下、心停止

2. その他の副作用

② 悪心、熱感、嘔吐、かゆみ、じんましん、潮紅、血管痛、嘔声、くしゃみ、胸痛、腹痛、動悸など

当院では副作用防止のために、検査前にチェックリストによる問診や血液検査等の結果を確認してから検査を行います。もし検査前に不安なことがありましたら担当技師にご相談ください。

2

ガドリニウム造影剤

(MRI用造影剤)

当院のMRIで使用する造影剤は主に2種類あります。その中の1つがガドリニウム製剤です。ヨード造影剤の様に注入することによって血管や腫瘍がよく見えるようになります。しかし、使用量が少ない(60kgの人で12ml程度)ので体が熱くなることはあまりありません。CT検査と同様に検査終了後は水分をいつもより多めに摂ってください。副作用については以下の通りです。重篤な副作用頻度は1.9万人に1人くらいといわれています。

1. 重篤な副作用 (頻度不明)

① ショック・アナフィラキシー様症状

ショックをおこし呼吸困難、意識消失、顔面蒼白などの症状があらわれることがあります。また、呼吸困難、咽・喉頭浮腫、顔面浮腫などのアナフィラキシー様症状があらわれることがあります。

② 痙攣発作

痙攣発作があらわれることがあります。

③ 腎性全身性線維症(NSF)になることがあります。



2. その他の副作用

① 悪心、熱感、嘔吐、かゆみ、じんましん、潮紅、血管痛、嘔声、くしゃみ、胸痛、腹痛、動悸など

このように書くとし怖い薬のように思えますが、病気の診断には必要なことがありますので医師からの説明をよく聞いていただいて検査を受けるようにしてください。当院では副作用防止のために、検査前にチェックリストによる問診や血液検査等の結果を確認してから検査を行います。もし検査前に不安なことがありましたら担当技師にご相談ください。万が一造影剤による副作用がおきても、迅速に対処ができるようになっていますのでご安心ください。

経口摂取による造影剤

経口摂取による造影剤とは患者様に検査時に飲んでいただく造影剤のことです。静脈注射をする造影剤に比べると副作用も少ないです。胃の透視検査時のバリウムや発泡剤・MRCP検査時に使用する塩化マンガン四水和物内溶液があります。アナフィラキシー様症状のような重篤な副作用はないようですが、発疹やじんましんなどのアレルギー症状が出る場合があります。副作用は以下の通りです。

副作用

発疹、じんましん、軟便、下痢、腹痛、腹鳴、悪心、腹部膨満、胸やけ、便秘、眠気、頭痛など

経口造影剤を飲まないで、検査をする意味がなくなる場合もありますので、できるだけ担当技師の指示に従って摂取してください。どうしても経口摂取できない場合は担当技師に相談ください。